

岐阜国道建設発生土処理対策委員会の検討結果について

1 概要

岐阜国道事務所で実施している国道41号「美濃加茂バイパス事業」の、事業地内に仮置きしてある掘削残土より土壤環境基準値を超過するカドミウム等（自然由来）が検出された件について、残土の処理方法等の検討を行うため、平成22年6月8日に岐阜国道建設発生土処理対策委員会を開催しました。

2 委員会名簿

所	属	氏	名
岐阜大学	工学部	小嶋	智 教授
岐阜大学	工学部	佐藤	健 教授
岐阜大学	総合情報メディアセンター	篠田	成郎 教授
(財)岐阜県環境管理技術センター		寺尾	宏 技術主幹
岐阜薬科大学	薬学部	永瀬	久光 教授

* 五十音順

3 開催場所等

日 時：平成22年 6月 8日（火） 16：00～18：00

場 所：国土交通省 岐阜国道事務所 南棟大会議室
岐阜市茜部本郷1-36-1

4 委員会の検討結果

- ・美濃加茂バイパスの掘削残土より検出されたカドミウム等は、掘削土砂に含まれた自然由来の黄鉄鉱が酸化し土壤中の重金属等を溶出して発生したものと推測する。
- ・周辺の水質調査において電気伝導度の変化が大きいものについては、詳細調査を実施して要因物質を特定する必要がある。
- ・美濃加茂バイパスに仮置きしてある掘削残土については、土砂有効利用及び周辺環境への影響を考慮して発生場所の近傍で処理を実施すべきである。
- ・二重遮水工封じ込め（管理型構造）については地元等との調整により埋立地が選定できた場合、環境面及びコスト面において最も推奨出来る処分方法である。